

研究ノート

看護師の暗黙知に関する文献検討

伊藤 順子¹⁾・上星 浩子²⁾

A Literature Review on Tacit Knowledge of Nurses

Junko ITO¹⁾・Hiroko JOBOSHI²⁾

キーワード：暗黙知、看護師、文献研究、暗黙の看護

I. 緒 言

我が国は、少子高齢化で2025年にいわゆる団塊の世代がすべて75歳以上となる超高齢社会となる¹⁾。厚生労働省は、さらなる在宅医療等の推進を図っていくために、医師又は歯科医師の判断を待たずに、手順書により一定の診療の補助として特定行為を行う看護師の養成を始めた²⁾。今後、あらゆる場において看護を必要とする対象に、看護師は観察やアセスメントを通じて、臨床推論や病態判断を用いて臨床判断しなければならない立場となる。Banning (2008) は、臨床推論とは看護師が選択肢から選び、エビデンスを検討し、直感とパターン認識を用いて臨床判断を下すプロセスである³⁾と述べた。よって、看護師が臨床的に判断する思考プロセスには、直観や勘、経験に基づく知識である暗黙知が関与している可能性がある。

Michael Polanyi は、暗黙知によって1. 問題を妥当に認識する。2. その解決へと迫りつつあることを感知する自らの感覚に依拠して、科学者が問題を追及する。3. 最後に到達される発見について、いまだ定かならぬ暗示=合意を妥当に予期するというメカニズムを明らかにした。そして、暗黙知について「我々は言葉にできるより多くのことを知ることができる⁴⁾と表した。しかし近年、我が国の看護師の役割は拡大していく中で、看護師の暗黙知を集約した研究はない。大崎は、「暗黙知は」その習得や発現のプロセスが明らかでないため、通常の「認知」の枠を超える次元に

存在し、「暗黙知」の研究自体が難しい⁵⁾と述べている。そこで今回、看護師の暗黙知がどのように働いているのかを具現化するための示唆を得るため、暗黙知の文献検討を行ったのでここに報告する。

II. 目 的

先行文献を通して、看護師が言語化できない暗黙知に関する研究の動向を知り、暗黙知の具現化への参考資料とする目的で文献検討した。今後、看護場面における暗黙知の抽出が可能になれば臨床判断への示唆が得られると考える。

III. 研究 方 法

1. データ収集 (図1)

データ収集は、2019年12月に検索を行った。国内最大であるデータベース医学中央雑誌 (医中誌 web) にてキーワード「暗黙知」を入力し、原著論文を検索した結果40件が特定された。これらの文献の被験者は、看護師のほか、介護者、作業療法士、介護福祉士らも含まれていた。本研究は看護師が対象であるため、キーワードに「看護」を追加し、対象が看護学生となっているものも除いた。文献件数が少ないことから、年代を制限せず収集した。さらに暗黙知に類似した意味をもつが抄録または研究の内容に「暗黙知」が含まれない論文レビューを除き、暗黙知の看護に焦点を当てら

1) 群馬パース大学看護実践教育センター 2) 前 群馬パース大学保健科学部看護学科 (現 群馬大学大学院保健学研究科看護学講座基礎看護学)

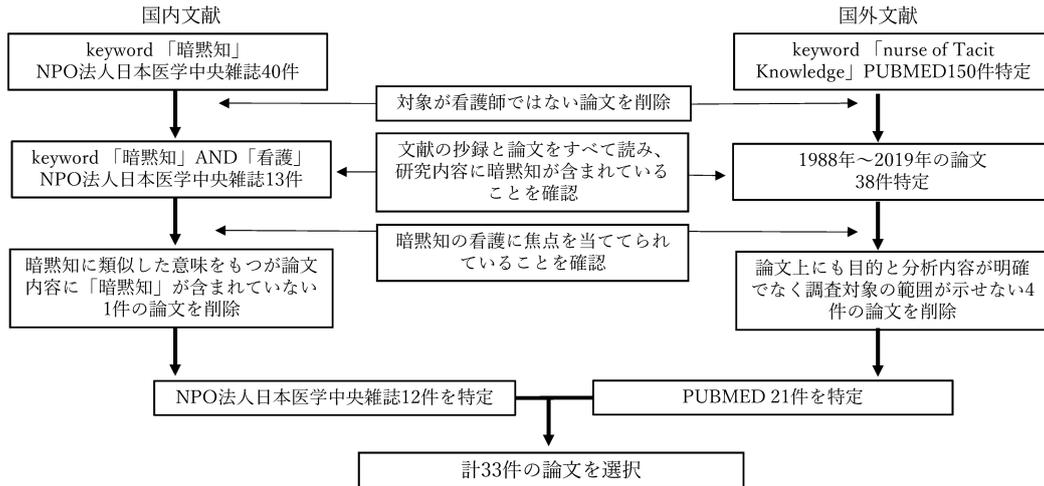


図1 データ収集のフローチャート (2019年12月現在)

れている論文12件を対象とした。

また国外では医学文献データベースのPubMedにて keyword 「nurse of Tacit Knowledge」を入力すると150件となり、この最大ヒット数であるキーワードを選択した。1988年から2019年の暗黙知に関わる研究のうち看護師を対象とした38件の文献を精読し、すべての文献 Topics と Abstract を読み、論文上に目的と分析方法が及び調査対象の範囲が示せない文献を除き、暗黙知の看護に焦点を当てて抽出している21件を選択した。そのうち暗黙知に関する文献的レビュー^{6,19,25)}が含まれた。本研究のデータ収集は、国内文献12件と国外文献21件で行った。

2. 分析方法

暗黙知に関する研究の概要と動向を探るべく、計33件の論文の「キーワード」と「データ収集」「分析方法」を質的に調査した。さらに言語化の難しい暗黙知の検出がどのように解釈されているかという視点で、「対象者」「目的」「分析内容および場面」を抽出し、文献的検討を行った。

IV. 倫理的配慮

対象の文献すべてに、内容の変更が加わらないよう注意し、使用されている文章は変えず吟味して解釈することに努めた。

V. 結 果

1. 暗黙知に関する国内文献の概要 (表1)

1) キーワードとデータ収集法、分析方法

国内における暗黙知に関わる研究の発表は2005年から2019年にわたり、キーワードに「暗黙知」を使用した文献は9件⁷⁻¹⁵⁾あった。次に「ナレッジマネジメント」3件^{12,16,18)}、「臨床判断」^{15,18)}「形式知」^{9,11)}各2件あり、その他のキーワードは多数あったが各1件であった。

データ収集法は、半構成的面接法が6件^{7,10-13,16)}、アンケート調査法が2件^{11,13)}、参加観察法が3件^{7,9,10)}、ナラティブインタビュー法が2件^{8,9)}、その他の方法を用いたものは、グループインタビュー¹⁴⁾、グループディスカッション¹⁵⁾、自己記述質問紙調査法¹⁷⁾、アクションプランの実施¹⁸⁾などは各1件であった。

分析方法は質的研究が主で、量的な分析は1件¹¹⁾であった。質的な分析は、グラウンデッド・セオリー・アプローチ (修正版を含む) は2件^{12,16)}、Berelson 内容分析が1件¹⁵⁾、krippendorff 内容分析が1件¹⁰⁾、語り毎に内容分析を行ったものが1件⁸⁾、事例カンファレンス¹⁸⁾1件であった。そのほかに、抽出された内容を分析またはカテゴリー化しているものが4件^{7,13,14,17)}であった。

2) 研究対象者

研究の対象者は各専門部署の看護師が6件^{7,9,14,15,17,18)}で最も多く、熟練看護師が3件^{7,8,14)}であった。専門分野は「眼科」「手術室」「外科系病棟」「救命救急ER部門」「精神科外来」「外来」であった。看護師の熟練度は、キャリアラダーレベルⅢ以上、エキスパート、勤務6年以上の看護師を対象としていた。管理役割が

表1 暗黙知に関する国内文献の概要

No.	著者名	タイトル	キーワード	目的	対象者	データ収集	分析方法	分析した内容および場面
7	山田雅子, 中村一美, 緒田美帆, ほか	眼科病棟に勤務する熟練看護師の点眼手技における暗黙知の言語化への取り組み	点眼手技, 熟練看護師, 暗黙知	眼科病棟に勤務する熟練看護師の点眼手技の暗黙知を言語化する	眼科病棟勤務6年以上の看護師6名	アンケート調査, 参加観察, 半構成的面接法	カテゴリーに分類し分析	点眼の場
8	田所みき子, 上田今日子, 大谷綾子, 島田佳代	脳外科病棟における看護場面での暗黙知を探る	エキスパートナース, 暗黙知, 看護場面	暗黙知として存在する看護場面に焦点を当て, エキスパートナースが看護場面で対象をどのように捉えているかを明らかにする	エキスパートナース	ナラティブアプローチ・インタビュー	内容を語り毎に分析	脳外科病棟の看護場面
9	大川百恵, 川田世里子, 岡岡和江	外来看護師が行う瞬間の看護に潜在する暗黙知 看護場面をナラティブで振り返って	外来看護師, 瞬間の看護, 暗黙知, 形式知, ナラティブ	外来看護師が, 何を見て, 何を感じて考えて, どのように行動したかという瞬間の看護に潜在する【暗黙知】を明らかにする	外来看護師5名	参加観察, ナラティブインタビュー	プロット(あらすじ)した	外来対応場面
10	寺島ひとみ	業務改善に取り組む看護師長の暗黙知	暗黙知, 業務改善, 看護師長, 看護管理	看護師長個人が, 病棟の業務改善に対処するためにその経験を通してどのような暗黙知を蓄積し, 使っているかを明らかにする	看護師長3名	参加観察と半構成的面接法	内容分析 krippendorff,1980	業務改善における意図や考え
11	日下佐代子	看護師の暗黙知から形成知への知識変換プロセスに影響を与える要因 SECIモデルを使用した内面化から共同化へ	看護師, 暗黙知, 形式知, 知識変換プロセス, 影響要因	看護師の暗黙知から形式知への変換プロセスにおける影響要因を, 変換プロセスの構造化を示すSECIモデルの一部である内面化から共同化への変換プロセスに焦点を当てて明らかにする	看護師166名	アンケート調査 (Gibbs)25名, 半構成的面接法 2	カイニ乗検定, 1元配置分散分析	自分の暗黙知, 臨床の場における他人の暗黙知に関する気づきや感じている事例
12	村上成明	看護実践の知識伝授プロセスにみられる暗黙知伝授の有用性の検討 ―看護管理者の知識伝授体験より―	知識伝授, 暗黙知, ナレッジマネジメント, 文化, 面接法	看護実践における知識伝授プロセスを概念化することでその特徴を見出し, 看護の暗黙知伝授の有用性について検討する	中間管理職にある看護師8名	半構成的面接法	修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ	対象者が知識伝授の経験を語る
13	中原明日香, 奥園夏美	PNSにおける暗黙知獲得に向けた気づきの言語化や共有化の実態	気づき, 暗黙知, PNS	PNSにおける暗黙知獲得に向けた気づきの言語化や共有化の実態を調査する	看護師23名	アンケート調査 (Gibbs)25名, 半構成的面接法 2	カテゴリーに分類し分析	PNSにおけるパートナーとの看護実践の場面, 事例28件
14	笠井純, 瀬良栄子, 山下浩美	外回り看護師が持つ暗黙知の可視化 ―患者入室から手術開始までの外回り看護師がとる行動の意味―	外回り看護師, 暗黙知, 可視化, 患者, 入室, 手術	専門性の反映された外回り看護のマニュアル作成を目指す, 外回り看護師の暗黙知による行動の中から, 潜在している看護行為を明らかにする	キャリアラダーレベルⅢ以上に相当する手術室看護師13名(外回り)	グループインタビュー	内容について分析したものをカテゴリー化	入室から退室まで外回り看護師の患者につながる全ての行動
15	杉本厚子, 堀越政孝, 高橋真紀子, 齋藤やよい	異常を察知した看護師の臨床判断の分析	臨床判断, 直観, 急性期看護, 臨床知, 暗黙知	患者の異常を察知した時に, 看護師が捉えた事象と臨床判断の特徴を明らかにする	外科系病棟に勤務する看護師15名	グループディスカッション	Berelson 内容分析	患者の異常を察知したエピソードと臨床判断
16	村上成明	看護ユニットにおける知識共有構造の概念化(第1報)―進展課程―	看護, 組織, 知識, ナレッジマネジメント	知識共有に影響要因と看護師長が実践する知識管理法を記述的な方法の収集し知識共有の過程と構造を明らかにする	看護師長20名	半構成的面接法	グラウンデッド・セオリー・アプローチ	看護ユニット内の知識共有に影響を与えている要因とマネジャーの判断および実践
17	浅川喜久次, 松本美香, 成田真由子, ほか	単科精神科病棟の外来医療が求められるものと果たすべき役割 5場面における介入	精神科外来スタッフ, 役割, 場面	精神科外来スタッフが患者と関わる際の介入の特徴を明らかにする	看護師, 准看護師他, 外来スタッフ131名	自己記述質問紙調査法	カテゴリーに分類し内容を分析	受付時対応, 電話対応, 検査時(バイタルサイン測定)対応, 処置時対応, 入院時対応, その他
18	坂口桃子, 作田裕美, 佐藤美幸, 中島美和ほか	臨床判断能力の向上に向けた「暗黙知」伝授の一方略	ER看護, 臨床判断, 事例カンファレンス, ナレッジマネジメント, アクションリサーチ	①ER看護チームの臨床判断能力の向上を果たすために有用な方略を開発する②そのアクションプランの評価からER看護師の臨床判断の種類と判断に至る手がかりを明らかにする	救命救急センターER部門に勤務する看護師23名	問題状況の確認と共有, アクションプランの策定, 実施	臨床判断能力の育成トレーニングシート開発, アクションプランの評価(カンファレンス記録)	事例カンファレンス(40例)

注)「暗黙知」が論文内容に含まれない文献を除く。

ある者が3件^{10,12,16)}で、看護師長や中間職として管理者を担っていた。そしてPNS(看護方式)看護師を対象としたものが1件¹³⁾であった。

3) 研究目的

研究の目的には、村上^{12,16)}の「暗黙知を知識の共有の過程と構造」、「知識伝授のプロセスの概念化、その特徴」、日下¹¹⁾の「看護師の知識変換にSECIモデルを用い、暗黙知から形式知への変換プロセスにおける影響要因」を明らかにするものがあり、これらの文献は、暗黙知の構造および共有するプロセス、特徴に焦点を当てたものであった。また山田ら⁷⁾の「点眼手技における暗黙知の言語化」、中原¹³⁾の「PNSにおける暗黙知獲得に向けた気づきの言語化や共有化の実態」は、暗黙の知識を言語化および共有化していくことを目的としていた。そして専門職としての立場から、寺島¹⁰⁾は「看護師長個人が経験を通じた暗黙知を蓄積・使用しているか」、浅川ら¹⁷⁾は「精神科外来スタッフ

が患者と関わる際の介入の特徴」があった。さらに暗黙知の出現は、田所ら⁸⁾「脳外科病棟の看護場面で対象をどのように捉えているか」、大川ら⁹⁾「外来看護師が、何を見て、何を感じて考えて、どのように行動したかという瞬間の看護に潜在する【暗黙知】」、笠井ら¹⁴⁾「手術室外回りでの潜在している看護行為」など、多くの看護場面に潜在する暗黙知を目的としている研究であった。また坂口ら¹⁸⁾の「①ER看護チームの臨床判断能力の向上を果たすために有用な方略を開発する②そのアクションプランの評価からER看護師の臨床判断の種類と判断に至る手がかり」や、杉本ら¹⁵⁾の「患者の異常を察知した時に、看護師が捉えた事象と臨床判断の特徴」が目的に明示され、救急救命部における看護師の臨床判断を行う場面での暗黙知を明らかにすることであった。これらの研究は、それぞれ個々の役割や専門性から暗黙知について検討していた。

4) 分析内容および場面

暗黙知に関わる分析内容は、「マネージャーの判断や実践¹⁰⁾」「知識伝授の経験¹²⁾」「業務改善における意図や考え¹⁰⁾」があった。そこにはキーワードに「ナレッジマネジメント」が含まれていた。これらの文献は、経験のある熟年看護師又は何らかの役割を担う看護師から他者に判断や経験による上昇志向を伝授し組織に継承される場面における暗黙知であった。

看護の場面では「点眼の場⁷⁾」「脳外科での看護場面⁸⁾」「入室から退室まで患者につながる全ての行動¹⁴⁾」において対象者が工夫し、実践している内容が抽出された。これらの研究は、経験や実践的な知識を駆使して熟練看護師が行為として援助に移している場面を抽出していた。また「PNSにおけるパートナーとの看護実践の場面、事例¹³⁾」「自分の暗黙知、臨床の場における他人の暗黙知に関する気づきや感じている事例¹¹⁾」「事例カンファレンス¹⁸⁾」など看護師が暗黙知化するプロセスを抽出しているものが3件あり、事例を通して他者との共有を図り、その看護行為実施後の効果を検討していた。そして、「外来対応場面⁹⁾」や「患者の異常を察知したエピソードと臨床判断¹⁵⁾」

など、看護師が何らかの判断を下す場面が2件あった。これらの研究では、直観や瞬時の介入が行われ、分析的な思考過程を経ず、瞬時に全体状況を丸ごと把握し、感覚的な気付きによって臨床判断を行っていた⁹⁾ことや、異常を察知した臨床判断には、データや経験の分析的判断と看護経験にもとづく非分析的判断の両者を活用していた¹⁵⁾と述べており、臨床判断に用いられる暗黙知の内容とその場面はあらゆる場面に存在しており多面的であった。

2. 暗黙知に関する国外文献の概要 (表2)

1) キーワードとデータ収集法、分析方法

国外の暗黙知に関わる研究のキーワードに「Tacit Knowledge」示した文献は7件^{6,19-24)}あった。次に「Clinical Decision-Making」、「Decision making」など、意思決定に関するものが4件^{25-27,35)}、知識に関するものは「Implicit knowledge」^{6,23)}、「knowledge translation」^{6,23)}、「knowledge management」^{6,21)}各2件、「knowledge」²⁸⁾1件あった。

データ収集法は、半構成的面接法が2件^{30,36)}、インタビュー法が2件^{20,26)}、フォーカスグループインタ

表2 暗黙知に関する国外文献の概要

No.	著者名	タイトル	キーワード	目的	対象者	データ収集	分析方法	分析した場面
6	Pérez-Fuillera N, Solano-Ruiz MC, Amezcua M	Tacit Knowledge: Characteristics in nursing practice	Clinical nursing; Implicit knowledge; Intuition; Intuition; Knowledge management; Tacit knowledge, etc	暗黙知を構成する定義と特性を分析し、それが看護学の分野で果たす役割を決定する	819件の論文から、暗黙知と看護に関する35件の記事	CUIDEN, ScIELO, PubMed, Cochrane, CINAHL	コンテンツ分析	文献検討
19	Marlies Van Der Zande, Andries Baart, Frans Vosman	Ethical sensitivity in practice: finding tacit moral knowing.	ethical sensitivity; health-care professionals; nursing; qualitative research; shadowing; tacit knowing	倫理的感性との概念モデルと説明、ケアの実践に焦点を当て、明示的な道徳的知識と暗黙の道徳的知識とを区別する	1958年から2011年までの出版物	2009年に複数のケーススタディ	現象学的段階の収集	暗黙の知識、慣行、および倫理的感性に関する文献検討
20	Brummell SP, Seymour J, Higginbottom G.	Cardiopulmonary resuscitation decisions in the emergency department: An ethnography of tacit knowledge in practice.	Cardiopulmonary resuscitation; Decision making; Dying trajectories; Emergency care; End-of-life care; Ethnography; Tacit knowledge; United Kingdom	英国の2つの救急部門で働く医療専門家が、蘇生を開始、継続、または中止する決定をどのように行うかを調査する	看護師、医療スタッフ、救急隊員	蘇生の試みの参加者の観察と、その試みに参加した看護師、医療スタッフ、救急隊員との詳細なインタビュー	比較分析	心肺蘇生の決定
21	Hendriks PH, Ligthart PE, Schouteten RL.	Knowledge management, health information technology and nurses' work engagement	Health care professionals, health information technology, knowledge management, tacit/explicit knowledge, work engagement	医療情報技術 HIT が看護師の進行中の作業プロセスと作業従事に関する明示的かつ暗黙的な知識にどのように影響するかについての洞察を提供する	オランダの病院の4区にいる74人の看護師	検証済みの測定機器を使用した紙と鉛筆の調査	準実験的な研究デザイン、部分最小二乗法分析	2つの実験病棟に HIT が導入された時点で4つの病棟で事前テスト、3か月後に事後テスト
22	Palese A, Bressan V, Kasa T, Meri M, Hayter M, Watson R.	Interventions maintaining eating independence in nursing home residents: a multi-centre qualitative study.	Content analysis; Dementia; Eating assistance, interventions; Elderly; Feeding difficulties; Mealtime difficulties; Nursing home; Perceived effectiveness; Qualitative study; Tacit knowledge	暗黙知から導き出され、介護施設(NHs)の医療専門家(HCP)による食事支援を毎日提供する介入を強調する	介護施設(NHs)の主に認知症のために食事申度/重度の機能的依存を有する入居者を認める13人のNHと日常的に関与する54のHCP	フォーカスグループインタビュー	定性的なコンテンツ分析	日常的に関与する54のHCPの意図的なサンプル13
23	Elizabeth J Dogherty, Margaret B Harrison, Ian D Graham, Amanda Digel Vandyk, and Lisa Keeping-Burke.	Turning knowledge into action at the point-of-care: the collective experience of nurses facilitating the implementation of evidence-based practice.	best practice; critical incident technique; evidence uptake; evidence-based practice; evidence-informed practice; facilitation; implementation; knowledge translation; nursing	実践にエビデンスを実装する看護師の経験に組み込まれた促進に関する暗黙知を記述する	カナダ全土から20人の看護師が意図的に選択	対話型知識翻訳シンポジウムに参加して収集したデータ	一定の比較の定性的帰納的アプローチを使用し、データをさらにテーマ別に分析	実際に証拠を実施する上で何が効果的で何が効果的でなかったか
24	Maekawa Y, Majima Y, Soga M.	Quantifying Eye Tracking Between Skilled Nurses and Nursing Students in Intravenous Injection.	Nursing skill, Eye Tracking, Tacit Knowledge, Learning support, Intravenous Injection	暗黙の看護技術の学習支援目的に熟練看護師の静脈注射スキル実施時のアイトラッキング	専門看護師と看護学生	アイマークレコーダー	実際の測定値からの視線を含む両者の違いを分析	両者のスキル強化時の視線追跡
25	Crook JA.	How do expert mental health nurses make on-the-spot clinical decisions? A review of the literature.	decision-making expert hypothesis-abductivism intuition reflection tacit	専門家の意思決定をめぐる行動を明らかに文献レビュー	専門のメンタルヘルス看護師	文献上	文献検討	

No.	著者名	タイトル	キーワード	目的	対象者	データ収集	分析方法	分析した場面
26	Paul H.J. Hendriks,	Self-Management Education for Bipolar Disorders: A Hermeneutic-Phenomenological Study on the Tacit Knowledge of Mental Health Nurses.	Capacity Building; Clinical Decision-Making; Interpersonal; Organisational Behaviour Nursing	双極性障害 (BD) の人々と非公式の介護者に自己管理教育を提供した経験をメンタルヘルス看護師 (MHN) が使用する暗黙知を検出する	オランダの3つの救急 ED 診療所の MHN (N=9)	インタビュー	現象論的解釈学的研究 (解釈分析)	メンタルヘルス看護師 (MHN) の経験
27	Yoo KH, Zhang YA, Yun EK	Registered Nurses (RNs)' knowledge sharing and decision-making: the mediating role of organizational trust.	Capacity Building; Clinical Decision-Making; Interpersonal; Organisational Behaviour Nursing	韓国の病院で登録された看護師間の臨床的意思決定能力と信頼の仲介役割に対する明示的および暗黙的な知識共有の影響を調査する	210人の登録看護師	無作為抽出	構造方程式モデリング	知識共有行動、信頼、および看護スケールでの臨床的意思決定
28	Hamilton BE, Manias E.	Rethinking nurses' observations: psychiatric nursing skills and invisibility in an acute inpatient setting.	Australia.EthnographySituating, knowledge, Patient assessment, Psychiatric nursing, Nursing work	急性精神医学部の看護師が、勤務シフトを通して、観察を患者の日常の評価の重要な部分としてどのように使用したかを調べる	11人の精神科看護師の評価慣行とオーストラリアの病院環境			勤務シフトを通して観察を患者の日常の評価の重要な部分としてどのように使用したか
29	Fackler CA.	Retaining older hospital nurses: Experienced hospital nurses' perceptions of new roles.	new roles; older hospital nurse; retention	高齢で経験豊富な病院の臨床看護師が、病院の臨床診療における新しい役割について、彼らが増齢するにつれて認識することを調べる	4つの病院の50歳以上の経験豊富な病院臨床看護師の合計20人	5つのフォーカスグループ		
30	Bowen L, Shaw A, Lyttle MD, Purdy S.	The transition to clinical expert: enhanced decision making for children aged less than 5 years attending the paediatric ED with acute respiratory conditions.	emergency care systems, primary care; paediatric emergency med	急性呼吸器疾患を患う5歳未満の小児の小児 ED (PED) での臨床的意思決定に影響を与える要因を調査	小児救急医療 (PEM)、救急医療、または小児科のさまざまなレベルの経験を持つ15人の PED 臨床医 (医師、救急看護師、登録看護師)	半構造化面接	テーマ別に書き起こし、分析	経験の増加に伴う経営判断の適応方法
31	Verhoeven F, Stehouder MF, Hendrix RM, van Gemert-Pijnen JE	How nurses seek and evaluate clinical guidelines on the Internet.	clinical guidelines infectious diseases information technology Internet midwives nurses qualitative research	看護師の情報探索戦略とインターネット上の臨床ガイドラインを求めるときに遭遇する問題を評価し、ガイドラインとガイドラインを伝えるウェブサイトを評価するときに適用する基準を調査	20人の看護師	インターネットを使用してシナリオベースのタスクを解決し、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌に関する臨床ガイドラインを求めた	看護師の情報探索戦略とインターネット上の臨床ガイドラインを求める情報検索	
32	Kim HJ, Kim JH.	Concept Analysis of Tacit Nursing Knowledge	Analysis; Hybrid; Nursing	ハイブリッドモデルを使用して韓国の臨床分野で実践されている暗黙の看護知識の性質を調査し、概念の定義と属性を明確にする	キャリア看護師	暗黙の看護知識の定義と性質、およびフィールドワーク	比較分析	フィールドワーク段階でキャリア看護師が実施した詳細
33	Büssing A, Herbig B, Ewert T.	[Intuition as implicit knowledge].		直観、暗黙の知識、経験という用語に関連し、看護に対する意味を説明	16人の経験豊富な看護師	実証研究	行動を導く暗黙知を説明する方法を開発し、この種の知識の精査	危機的な状況を模擬した状況に対処する
34	Herbig B, Büssing A, Ewert T.	The role of tacit knowledge in the work context of nursing.	tacit knowledge; experience-guided working; critical situation; explication; nursing	暗黙知が看護分野の専門知識にどのように貢献しているかを明らかにする	16人の経験豊富な看護師	実験室研究	多次元スケールリング法	看護師は看護専門家と協力して開発された重大な看護状況に対処
35	Fox C.	A confirmatory factor analysis of the structure of tacit knowledge in nursing.		看護職の暗黙知の構造を調べる	看護師	看護師のための暗黙の知識の紙と鉛筆の尺度	確認因子分析	
36	Stevenson C.	Tacit and transitional: an exploration of patients' and primary care health professionals' goals in relation to asthma.	Asthma, Goals, Patient-centred care, Long term conditions, UK	プライマリケアの臨床相談の中で、医療専門家と喘息患者の両方の喘息の目標を調査および比較し、共通の目標とより患者中心のケアの提供を達成するための潜在的な障壁を特定	英国のテイサイド出身の喘息患者15人、一般開業医7人、プライマリケア喘息看護師6人	半構造化インタビュー	データは「フレームワーク」方法論を使用して分析	医療専門家と喘息患者の両方の喘息の目標
37	Dixon L, Thompson H.	The role of the district nurse in caring for patients with dementia	Dementia; District nurse; Mental Health Act; Palliative care services; Person-centred care	地区看護師の役割	地区看護師	ケーススタディ		認知症患者のケアに対する暗黙知の使用
38	Olsson HM, Gullberg MT.	Nursing education and definition of the professional nurse role. Expectations and knowledge of the nurse role.		看護教育と専門看護師の役割の定義と専門的地位の認識	登録看護師			看護師が登録看護師として最初の1年を経験後の役割概念の発生

注) 論文上に目的と分析方法及び調査対象の範囲が示せない文献を除く。

ビューが2件^{22,29)}あり、マイクレコーダー²⁴⁾、無作為抽出法²⁷⁾、インターネット³¹⁾、フィールドワーク³²⁾、実験室研究³⁴⁾が、各1件あった。

分析方法は、コンテンツ分析^{6,22)}が2件、確認因子分析³⁵⁾、多次元スケールリング法³⁴⁾、構造方程式モデリング²⁷⁾、部分最小2乗法²¹⁾、アイトラッキングによる視線を含む両者の違い²⁴⁾、実証研究³³⁾等、各1件で量的研究であった。その他、比較分析^{20,32)}、テーマ別分析^{23,30)}、現象学的分析^{19,26)}が各2件あり、フレームワー

ク方法論分析³⁶⁾、評価及び適応を調査分析³¹⁾等、各1件で質的研究であった。

2) 研究対象者

研究の対象を専門分野別にみると7件^{20,22,26,28,30,36,37)}、介護施設の看護師、精神科看護師、プライマリケア喘息看護師、地区看護師が各1件、救急部門の看護師は3件で、小児救急も含まれていた。また熟練看護師の5件^{24,29,30,33,34)}は、キャリア看護師、経験豊富な看護師、50歳以上の看護師などで示され、専門看護師が含まれ

ていた。管理役割の記述はなく、登録看護師（RN）が3件^{27,30,38}で、NCLEX-RN（正看護師）かNCLEX-PN（准看護師）は不明であった。

3) 研究目的

暗黙知の検出を目的とした研究が最も多く12件^{19-23,26,28-31,34,36}あり、暗黙知の概念や構成、特性を明らかにするものが4件^{6,32,33,35}、暗黙の知識を言語化および共有化していくことを目的としたものが2件^{24,27}あった。その中で暗黙知を「(Clinical) Decision-Making」と捉えているものが6件^{6,20,25,27,30,35}含まれていた。これまで「暗黙知」に関する文献レビューは、Pérez-Fuilleraatら（2019）⁶、Marlies Van Der Zandeら（2014）¹⁹、Crook JA（2001）²⁵の3件あった。

4) 分析内容および場面

暗黙知に関わる分析内容は、実際に看護師が専門性を活かし、看護の暗黙知を実践している場面が最も多く「フィールドワーク段階でキャリア看護師が実施した詳細の場面³²」「看護師が看護専門家と協力して開発された重大な看護状況に対処する場面³⁴」「食事支援を毎日提供する場面²²」「看護師がシミュレートされたクリティカルな看護状況に対処する³³」「看護師の情報探索戦略とインターネット上の臨床ガイドラインを求める情報検索³¹」があり、看護師が実施した内容及び対処方法の抽出を行っていた。次に多かったのは意思決定や臨床的判断による場面で「知識共有行動、信頼、および看護スケールでの臨床的意思決定の場面²⁷」「心肺蘇生の決定²⁰」「医療専門家と喘息患者の両方の喘息の目標³⁰」「経験の増加に伴う経営判断の適応方法³⁰」があった。専門性の高い看護師の実践としては「メンタルヘルス看護師（MHN）の経験²⁶」があった。そして看護師の実践には「両者のスキル強化時の視線追跡²⁴」「観察を患者の日常の評価の重要な部分としてどのように使用したか²⁸」があり、看護師の視線や観察を通してのものに焦点があった。また「経験1年後の役割概念の発生³⁸」「2つの実験病棟に分けHIT導入時の事前、事後テスト実施²¹」のような実施後の効果を表すもの、「家族の指導、患者の擁護者としての役割、次世代の看護師の指導における重要な役割を説明²⁹」する場面など、役割の変化または組織運用の再設計を分析した場面があった。

VI. 考 察

看護師の暗黙知に関する研究の前提に、言語化でき

ない直観を表現することの難しさがある。Pérez-Fuilleraat Nら（2019）の文献の統合レビューでは、2016年までに公開された合計819件の論文から、暗黙知と看護に関する35件をコンテンツ分析したが、暗黙の知識の結果と暗黙知という名称のコンセンサスは得られていない⁶。本検討でも暗黙知を抽出し形式知に変える方法は未だ明示的ではない。しかし国内外の文献のキーワードには、暗黙知のほかに、知識を共有して活用することで、新たな知識を創造しながら看護を実践することである「ナレッジマネジメント」が多く存在していることから、著者たちは暗黙知が価値ある知見として看護に反映できると考えているといえる。

暗黙知に関する研究の動向は、研究手法において国内では質的研究が主であったが、国外では分析方法に、アイトラッキングや実証研究などの量的研究による暗黙知を形式知化する試みが行われている。今後は暗黙知を科学的に立証していきたいことから、量的研究を含め客観性の検証への試みがさらに増加すると考える。また国内外に関わらず、新人レベルの研究対象がなかったことから熟練した看護師や専門的な役割をもつ看護師の個人でも暗黙知が高いほど、より効果が表れることを示している。国外研究では、登録看護師の研究が行われているのに対し、国内の診療看護師、専門看護師、認定看護師の対象研究がないことから、新たな研究への可能性が示唆された。すでに先行研究で臨床判断には、看護経験が暗黙知に関与していることが明らかになっている。一方で日下部（2009）は、経験年数が短い者は暗黙知を獲得しようと努力しているが、経験年数が20～29年と長くなると他者から学ぶ姿勢が少なくなる傾向が認められた¹¹と述べている。暗黙知は相対的な他との関係にあるため、個人のこれまでの経験知が影響することは否めない。今後は、看護師の暗黙知が潜在する場面を明確に設定し、「意思決定」や「臨床的判断」に向かう思考プロセスを科学的根拠も踏まえて具現化し、暗黙知の効果をより多くの実践数として収集し検証する必要があると示唆された。

暗黙知の伝授が可能になれば、看護師教育には欠かせないものとなる。Carroll E（1988）は、看護師教育カリキュラムにおける「暗黙知」の重要性を認識することが重要であり、これにより患者ケアに関する決定プロセスに「暗黙の知識」を統合し看護師のスキルが向上する³⁹と述べている。暗黙知が体験談ではなく、熟練看護師から新人看護師へ継承していくことで、組織に広がり実践的效果として将来、看護学教育への導

入や看護師育成体系に組み込まれていくことが期待できると考える。今日の日本に置かれる看護師の実践力の向上は必須であり、暗黙知をより形式知化し、経営戦略や組織の業務改善に活かせると考える。

Ⅶ. 研究の限界と課題

今回、文献検討の対象となった研究は33件と少ない。また暗黙知は相対的な性質であることから、より多くの看護師と様々な看護場面でのプロセスを分析し暗黙知の客観性を重視することが課題となる。

Ⅷ. 結 論

1. 本検討の暗黙知研究の動向として、国内では質的研究が主であったが、今後看護師の暗黙知を客観的な事象として分析する量的手法による暗黙知を形式知化する試みが示唆された。

2. 看護師の暗黙知を科学的根拠も踏まえて思考プロセスを具現化し、より多くの実践数として収集する必要が示唆された。

参 考 文 献

- 1) 厚生労働省. 平成29年(2017)人口動態統計月報年計(概数)の概況, 2017, p.10-11. <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai17/index.html>, (参照2020-1-13).
- 2) 厚生労働省. 特定行為に係る看護師の研修制度「看護師の特定行為」, 2018, p.1-16. <https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000352190.pdf>, (参照2021-4-22).
- 3) Maggi Banning. Clinical reasoning and its application to nursing: concepts and research studies, Nurse education in practice, 2008, vol.8, no. 3, p.177-183.
- 4) Michael Polanyi, 高橋勇夫訳. 暗黙知の次元. 東京, ちくま学芸文庫. 2003, p.18, 50-51, ISBN4-480-08816-4.
- 5) 大崎正瑠. 暗黙知を理解する. 東京経済大学人文自然科学論集. 2009, no.127. p.21-39. <https://repository.tku.ac.jp/dspace/bitstream/11150/500/1/jinbun127-04.pdf>, (参照2021-4-22)
- 6) Pérez-Fuillerat N, Solano-Ruiz MC, Amezcuca M. Tacit Knowledge: Characteristics in nursing practice. 2019, Mar-Apr.33, no.2, p.191-196.
- 7) 山田雅子, 中村一美, 緒田美帆, 他. 眼科病棟に勤務する熟練看護師の点眼手技における暗黙知の言語化への取り組み. 第49回日本看護学会論文集急性期看護. 2019, no.49, p.3-6.
- 8) 田所みき子, 上田今日子, 大谷綾子, 他. 脳外科病棟における看護場面での暗黙知を探る. 川崎氏立川崎病院内看護研究集録. 2007, vol.61, p.61-64.
- 9) 大川百恵, 川田世里子, 松岡和江. 外来看護師が行う瞬間の看護に潜在する暗黙知 看護場面をナラティブで振り返って. 日本看護学会論文集看護管理. 2009, vol.39, p.75-77.
- 10) 寺島ひとみ. 業務改善に取り組む看護師長の暗黙知. 日本看護管理学会誌. 2009, vol.13, no.1, p.67-75.
- 11) 日下佐代子. 看護師の暗黙知から形成知への知識変換プロセスに影響を与える要因 SECIモデルを使用した内面化から共同化へ. 日本看護学論文集看護教育. 2009, vol.39, p.271-273.
- 12) 村上成明. 看護実践の知識伝授プロセスにみられる暗黙知伝授の有用性の検討 一看護管理者の知識伝授体験より一. 日本看護管理学会誌. 2006, vol.9, no.2, p.50-57.
- 13) 中原明日香, 奥園夏美. PNSにおける暗黙知獲得に向けた気づきの言語化や共有化の実態. 日本看護学会論文集看護管理. 2015, vol.45, p.7-10.
- 14) 笠井 純, 瀬良栄子, 山下浩美. 外回り看護師が持つ暗黙知の可視化 一患者入室から手術開始までの外回り看護師がとる行動の意味一. 日本手術看護学会誌. 2007, vol.3, no.1, p.80-83.
- 15) 杉本厚子, 堀越政孝, 高橋真紀子, 他. 異常を察知した看護師の臨床判断の分析. The Kitakanto Medical Journal. 2005, vol.55, no.2, p.123-131.
- 16) 村上成明. 看護ユニットにおける知識共有構造の概念化(第1報) 一進展課程一. 日本ヒューマンケア学会誌. 2019, vol.12, no.1, p.1-11.
- 17) 浅川喜久次, 松本美香, 成田真由子, 他. 単科精神科病院の外来衣料が求められているものと果たすべき役割 5場面における介入. 病院・地域精神医学. 2018, vol.61, no.1, p.87-89.
- 18) 坂口桃子, 作田裕美, 佐藤美幸, 他. 臨床判断能力の向上に向けた「暗黙知」伝授の一方略. 滋賀医科大学看護学ジャーナル. 2007, vol.5, no.1, p.38-43.
- 19) Marlies Van Der Zande, Andries Baart, Frans

- Vosman. Ethical sensitivity in practice: finding tacit moral knowing. *J Adv Nurs*. 2014, vol.70, no.1, p.68 – 76.
- 20) Brummell SP, Seymour J, Higginbottom G. Cardiopulmonary resuscitation decisions in the emergency department: An ethnography of tacit knowledge in practice. *Soc Sci Med*. 2016, no.156, p.47–54.
- 21) Hendriks PH, Ligthart PE, Schouteten RL. Knowledge management, health information technology and nurses' work engagement. *Health Care Manage Rev*. 2016, vol.41, no.3, p.256–266.
- 22) Palese A, Bressan V, Kasa T, et al. Interventions maintaining eating Independence in nursing home residents: a multicentre qualitative study. *BMC Geriatr*. 2018, vol.27; 18, no.1, p.292.
- 23) Dogherty EJ, Harrison MB, Graham ID, et al. Turning knowledge into action at the point-of-care: the collective experience of nurses facilitating the implementation of evidence-based practice. *Worldviews Evid Based Nurs*. 2013, vol.10, no.3, p.129–139.
- 24) Maekawa Y, Majima Y, Soga M. Quantifying Eye Tracking Between Skilled Nurses and Nursing Students in Intravenous Injection. *Stud Health Technol Inform*. 2016, vol.225, p.525.
- 25) Crook JA. How do expert mental health nurses make on-the-spot clinical decisions? A review of the literature. *J Psychiatr Ment Health Nurs*. 2001, Feb.8, no.1, p.1–5.
- 26) Paul H.J. Hendriks. Self-Management Education for Bipolar Disorders: A Hermeneutic-Phenomenological Study on the Tacit Knowledge of Mental Health Nurses. *Issues Ment Health Nurs*. 2019, vol.40, no.11, p.942–950.
- 27) Yoo KH, Zhang YA, Yun EK. Registered Nurses (RNs)' knowledge sharing and decision-making: the mediating role of organizational trust. *Int Nurs Rev*. 2019, vol.66, no.2, p.234–241.
- 28) Hamilton BE, Manias E. Rethinking nurses' observations: psychiatric nursing skills and invisibility in an acute inpatient setting. *Soc Sci Med*. 2007, vol.65, no.2, p.331–343.
- 29) Fackler CA. Retaining older hospital nurses: Experienced hospital nurses' perceptions of new roles. *J Nurs Manag*. 2019, vol.27, no.6, p.1325–1331.
- 30) Bowen L, Shaw A, Lyttle MD, et al. The transition to clinical expert: enhanced decision making for children aged less than 5 years attending the paediatric ED with acute respiratory conditions. *Emerg Med J*. 2017, vol.34, no.2, p.76–81.
- 31) Verhoeven F, Steehouder MF, Hendrix RM, et al. How nurses seek and evaluate clinical guidelines on the Internet. *J Adv Nurs*. 2010, vol.66, no.1, p.114–127.
- 32) Kim HJ, Kim JH. Concept Analysis of Tacit Nursing Knowledge. *J Korean Acad Nurs*. 2018, vol. 48, no.6, p.637–655.
- 33) Büssing A, Herbig B, Ewert T. [Intuition as implicit knowledge]. *Pflege*. 2000, vol.13, no.5, p.291–296.
- 34) Herbig B, Büssing A, Ewert T. The role of tacit knowledge in the work context of nursing. *J Adv Nurs*. 2001, vol. 34(5), p.687–695.
- 35) Fox C. A confirmatory factor analysis of the structure of tacit knowledge in nursing. *J Nurs Educ*. 1997, vol.36, no.10, p.459–466.
- 36) Stevenson C. Tacit and transitional: an exploration of patients' and primary care health professionals' goals in relation to asthma. *J Psychiatr Ment Health Nurs*. 1996, vol.3, no.2, p.103–110.
- 37) Dixon L, Thompson H. The role of the district nurse in caring for patients with dementia. *Br J Community Nurs*. 2018, vol.2; 23, no.7, p.348–353.
- 38) Olsson HM, Gullberg MT. Nursing education and importance of professional status in the nurse role. Expectations and knowledge of the nurse role. *Int J Nurs Stud*. 1988, vol.25, no.4, p.287–293.
- 39) Carroll E. The role of tacit knowledge in problem solving in the clinical setting. *Nurse Educ Today*. 1988, vol.8, no.3, p.140–147. p.1–42.

利益相反

本論文内容に関する利益相反事項はない。